

中学校道徳における情報モラル指導に関する研究

－疑似体験を取り入れた授業展開例の作成をとおして－

《補助資料目次》

- 補助資料1 研究協力校にける授業実践に関わる資料
 - (1) 読み物資料『秘密にしたかったのに』（メール1）
 - (2) 資料分析
 - (3) 展開例（別葉）
 - (4) 指導案
 - (5) 学習シート
 - (6) 教師用アンケート
- 補助資料2 《読み物資料》《展開例》
 - (1) 誰かが見ている、書いている（ブログ）
 - (2) 教えちゃだめだったの？（メール2）
 - (3) 本当の心（メール3）
 - (4) 軽い気持ちで書いたのに（掲示板）
 - (5) 電源をOFFにしてください（携帯電話のマナー）

○補助資料 1

(1) 読み物資料『秘密にしたかったのに』（メール 1）

秘密にしたかったのに（メール）

今週は、理科室掃除当番。みんな早く部活動に行きたいから、誰もゴミ収集所へ持っていかない。しかたなく、今日もわたしがゴミ収集所へ運んだ。もどつてくると、もうみんなはいない。一人寂しく理科室の鍵を職員室に返して部活動に行った。

次の日の掃除の時、

《今日もわたしがゴミ捨てに行くのか…》

と、考えていたとき、

「今日は、ボクが運ぶよ。」

同じ班のヤスシ君は、そう言ってゴミ箱をゴミ収集所まで持って行ってしまった。いつもわたしが運んでいたのに……。みんないなくなってしまった教室で、窓を閉めながら、ヤスシ君が戻ってくるのを待っていた。

なんてお礼を言おう。

でも、昨日までわたしがしていたことだから、お礼を言うのは変かな。

「あれ、なにしているの？」ヤスシ君はそう言いながらゴミ箱を置いた。

「ありがとう。いつもわたしがしていたのに。」

「明日から順番にするように、みんなに話すよ。鍵を閉めるよ。」

ヤスシ君はそう言って、わたしがいつも返していた理科室の鍵を持って職員室に行ってしまった。

後ろ姿を見送りながら、ヤスシ君がちょっといい人に思えてきた。

『今日、いいことあったんだ＼(^_^)／』となりのクラスのアツコに家に帰ってからメールを出した。

『何があったの？おしえてβ』

『ヤスシくんっていい人(^o^)]

わたしは、今日の掃除時間のことをアツコにメールで説明した。

次の日、教室に入ると2人の友人から声をかけられた。

「いいと思うよ、ヤスシ君って。」

「応援するよ。」

えっ？どうして知っているの。

わたしは顔が赤くなっていくのがわかった。

《もしかして、アツコがわたしのメールを他の人に送ったの？

信じられない。》

となりのクラスに駆け込んで、アツコの座っている机の前で大きな声で言ってしまった

「どうして他の人に教えたの？」

「あれ、転送しちゃダメだったの？」

大声で言い合うわたしたちを、となりのクラスの人たちが不思議そうに見ていた……。

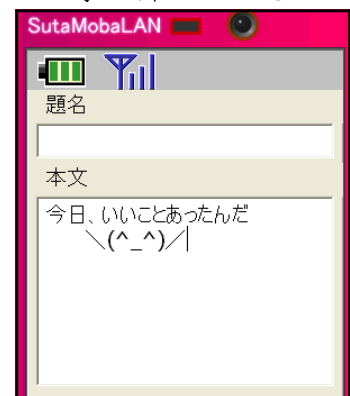
わたしは気持ちが沈んだまま家に帰った。

「ただいま。」

「おかえり。何落ち込んでるの？」

母に今日の出来事を話した。

「でも、あなたも悪いんじゃない。誰にも言わないでね、とは言ってないわよね。」



「だけど大切なメールを他の人に送るなんて失礼じゃん。」

「大切なことを伝えたければ、実際に話をしたほうがよかったのかもね。アツコちゃんだって、悪気があったわけではないと思うよ。」

「…」

わたしは部屋へ行き、母の言葉を思い出しながらしばらく考えた。

《アツコに悪いことしたなー》

わたしは、ケータイを取り出しアツコにメールをした。

(2) 資料分析

「秘密にしたかったのに」資料分析

【2-(3) 友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い高め合う】



(3) 展開例（別葉）

主 題	信頼できる友達	内容項目	2-(3)
資料名	秘密にしたかったのに	用いる疑似体験の指導	メール（スタモバ）
ねらい	メールに対する価値観の違いを理解し、共によりよく生活しようとする態度を育てる。		
主題構成の理由	携帯電話を持っている生徒は、連絡やささいなことを報告することにもメールを使用する。機能として安易に転送することもできる。メールに対する価値が人それぞれ違うので、友達の気持ちを考えて正しく使うことに気づかせたい。		
展 開 の 大 要		指 導 上 の 留 意 点	
導 入	<ul style="list-style-type: none"> メールを使っていて、いやな思いをしたことがありませんか。 	<ul style="list-style-type: none"> メールを使っていて困ったことなどについて話し合い、資料への関心を高める。 	
展 開	<ul style="list-style-type: none"> ヤスシ君の後ろ姿を見送ったわたしは、どんな気持ちだったでしょう。 わたしは、どうして掃除時間のできごとをアツコにメールしたのでしょうか。 わたしは、メールを転送したアツコをどう思いましたか。 母の話を聞いてわたしは何を考えたのでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> わたしの気持ちに共感させる。 言い合いになった内容を明確にし、わたしとアツコの考え方の違いに気づく。 母の話を聞いてアツコに送るメールの文章を考える。 	
終 末	<ul style="list-style-type: none"> 今日の授業の感想を書きましょう。 		
他の教育活動との関連			

(4) 指導案

道徳の時間 学習指導案

日 時 平成22年11月16日（火）

作 成 岩手県立総合教育センター

情報教育担当

1 主題名 信頼できる友達【2-(3)互いに励まし合い、高め合う】

2 資料名 秘密にしたかったのに（メール）

3 主題設定の理由

(1) 道徳的価値について

中学生の時期は、自分の趣味や興味、クラブ活動などによって友達を選択し、交流を深める。交流を深めるには、考え方の相違によるすれ違いも経験し、関係を修復することを繰り返すことによって本当の友達関係を築いていく。本資料を通して、信頼できる友達について考え、よりよい関係を築こうとする態度を育てる。

(2) 生徒について

携帯電話の所持率は全体の20%、メールを使用したことのある生徒は全体の50%いる。1日に1通以上のメールを送信している割合は25%になっている。携帯電話を所持していない生徒も、パソコンやゲーム機などを使ってメールを利用していることがわかる。

(3) 指導にあたって

○ 資料について

「わたし」が送ったメールを、友達のアツコが他の友達に転送した。そのことがもとで、「わたし」とアツコは言い合いになった。しかし、「わたし」は母の言葉を聞き、自分自身も悪かったことに気づく。このことをもとに、友達とのよりよい関係を築くことの大切さを理解させたい

○ 指導について

本資料では、「わたし」の気持ちに注目させる。主人公が、ヤスシに対する気持ち、うれしくてメールを送る時の気持ち、アツコと言い合いをしているときの気持ち、母の話聞いて考える気持ち、それぞれに共感させたい。

資料は、「わたし」がアツコに対してメールを作成する場面で終わっている。展開の後段では、生徒が主人公に託して自己を語る活動を取り入れ考えさせる場面を設定する。

4 本時の学習

(1) ねらい

メールに対する価値観の違いを理解し、共によりよく生活しようとする態度を育てる。

(2) 本時の学習

時間	学習活動と主な発問	予想される生徒の意識	具体的支援
導入 5分	1 メールを使った体験を想起させる。 ○メールを使っていて、いやな思いをしたことがありますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・友達とのけんか ・迷惑メール ・チェーンメール 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習プリントに記入する。 ・机間指導をして、挙手により確認する。
展開 40分	2 「秘密にしたかったのに」を読んで、主人公の気持ちを考える。 ○ヤスシ君の後ろ姿を見送ったわたしは、どんな気持ちだったでしょう。 ○わたしは、どうして掃除時間のできごとをアツコにメールしたのでしょうか。 ○わたしは、メールを転送したアツコをどう思いましたか。 ○母の話を聞いてわたしは何を考えたのでしょうか。 3 主人公にかわって、アツコへ送るメールの文章を考える。 ○「わたし」は、アツコにどんなメールを送ったのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・やさしい。 ・リーダー性がある。 ・ヤスシ君の優しさを伝えたかった。 ・うれしさを分かち合いたい ・転送するなんてひどい。 ・うらぎりだ。 ・わたしも間違っていたのかな。 ・アツコが悪い。 ・アツコ今日のごめん。ヤスシ君は、掃除の時間とても誠実そうに見えて、それがうれしかったの。それをアツコに伝えたくて… 	<ul style="list-style-type: none"> ※必要に応じて学習プリントを活用する。 ・机間指導をして、書けない子にはサポートをする。 △自己を表出させることができる。 △わたし自身も考え直さなければいけないことを書くことができる。
終末 5分	4 授業の感想を書く。 ○今日の授業の感想を書きましょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・感想を書き、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・机間指導をして、書けない子にはサポートをする。

(3) 評価

メールに対する価値観の違いを理解し、共によりよく生活しようとする態度を育てることができたか。(学習プリント・発言)

(5) 学習シート

秘密にしたかったのに (メール)

年 組 名前

1 アンケート

(1)あなたはメールを使ったことがありますか。…………… ある・ない

(2)メールを使っていて、いやな思いをしたことはありませんか。ある人は下に書きましよう。

Empty dashed box for writing answers to question 1(2).

2 自分の考えを書きましょう。

Large empty dashed box for writing personal thoughts.

3 「わたし」はアツコにどんなメールを送ったでしょう。

件名: アツコへ

本文:

.....

.....

.....

.....

.....

4 今日の授業の感想を書きましょう。

※ 今日の勉強を通して、自分の考えに近いものを一つ選んで、○で囲んでください。

(1) 資料「秘密だったのに」のお話は、読みやすかったですか。

- ア 読みやすかった
- イ どちらかといえば、読みやすかった
- ウ どちらかといえば、読みにくかった
- エ 読みにくかった

(2) 資料「秘密だったのに」のお話は、わかりやすかったですか。

- ア わかりやすかった
- イ どちらかといえば、わかりやすかった
- ウ どちらかといえば、わかりずらかった
- エ わかりずらかった

(3) メールは、自分たちの生活に必要なものですか。

- ア 必要
- イ どちらかといえば、必要
- ウ どちらかといえば、不必要
- エ 不必要

(4) メールによるトラブルをさけるために、どのようなことに気をつけたら良いと思いますか。

ご協力ありがとうございました。

(6) 教師用アンケート

【先生用】

秘密にしたかったのに（メール）

所属学年等（ ）

1 本時のねらい、「メールに対する価値観の違いを理解し、共によりよく生活しようとする態度を育てる。」指導をするのに、有効であったと考えますか。

ア 有効だと思う

イ どちらかといえば、有効であった

ウ どちらかといえば、有効ではなかった

エ 有効ではなかった

2 今日の授業の感想をお書きください。

3 資料「秘密にしたかったのに」の感想や意見、改善内容等をお書きください。

4 今後、生徒を取り巻く環境の中、道徳資料で必要となる資料にはどんなものがありますか。ご意見をお聞かせください。

ご協力ありがとうございました。

○補助資料 2

(1)《読み物資料》誰かが見ている、書いている（ブログ）

誰かが見ている、書いている（ブログ・掲示板）

俺の名前はカズ。サッカーが大好きで、小学校の頃には地元クラブチームの「キッズサッカー教室」に毎週通った。S 中学でも迷わず選んだのはサッカー部。ドリブルのうまさをコーチにほめられ、フォワードのポジションになった。体はまだ大きくないから力で押されると弱いけど、フットワークでは負けない。敵のディフェンスを足でかわしてみせる。

でも、本当にやりたいのはミッドフィルダー。真ん中の位置から敵の動きを見て右左にボールを出してミドルシュートでゴールをかつこよく決めたい。3 年生になったら 10 番のエースナンバーをつけてプレーしたいな。

S 中学校のサッカー部は地区でも結構強い。去年の地区大会では優勝して、県大会に出場している。県大会ではディフェンスのミスで入れられた 1 点をなんとか返そうと俺はフォワードでがんばったんだけど、逆転できなかった。あのときは本当に悔しくて涙が止まらなかった。県大会の試合の後のコーチの言葉が今でも心に残っている。

「負けには理由がある。それを見つけ出せ。」

このときから、俺は試合の記録を書き始めたんだ。チームみんなで見ることができるように、ネットのブログを開いた。練習や試合があった夜にブログに記事を書くと、チームのみんなが掲示板に意見を書いてくれる。

左サイドからの攻撃が 1 回もなかったよ

ディフェンスが敵に抜かれたときは 1 点入れられたかと思ったよ。ナイスキャッチ！キーパー！

試合が勝ったときも負けたときも、チームみんなの書き込みでブログは盛り上がっていた。

次の週の A 中学校との練習試合は今までにないくらいのボロボロの試合だった。速攻でディフェンスをかわされて連続得点されるし、俺のシュートは相手キーパー止められてしまってゴールに入らない。試合の前半だけで 5 点差をつけられてしまった。

「確実に 1 点取りに行こう！！」

3 年生のキャプテンのヒデさんのかけ声で後半戦が始まった。チーム全員がまとまっていないからパスが通らず、すぐに相手チームにボールを取られてしまう。それでもヒデさんががんばってボールをキープした。ヒデさんからのボールをもらって、俺はゴールを目指した。でも、3 人のディフェンスに囲まれて前に進めない。

後ろから、ヒデさんの叫ぶ声が聞こえた。

「カズ、パス出せ！」

その声を振り切るように、俺は、相手ゴール向かってシュートを蹴った。

「入ってくれ、1 点！」

思いもむなしく、ボールはゴールの上を飛んでいった。

結局、大差で負けてしまった。

試合後のミーティングでキャプテンのヒデさんが話した。

「チームで戦っているんだ！仲間が 11 人いるんだ。声かけてパスを出そう！」

俺だってそんなことはわかっている。でも、1 点取りに行きたいと思うと、周りの仲間を見る余裕もなく、敵ゴールをまっしぐらに目指してしまう。

その夜、ブログの掲示板に書き込みが・・・

誰にもパスしないでゴール狙っても点とれるわけないよ～

超簡単なシュート外していたぜ。フォワード ガンバ～(;_;)～

この書き込みは明らかに今日の試合を見ていた人だとわかった。ブログに学校名や名前を出していないのになぜ？このブログを開いていることを知っているのはサッカー部以外ではほんの数人しかいない。

次の日キャプテンのヒデさんが声をかけてくれた。

「ブログ大変なことになっているな。」

「・・・。」

「いたずらだよ。カズ、気にするな、元気だせよ。」

その夜も、嫌な書き込みは続いた。

あのフォワードじゃあチームプレーにならねーな。

中総体、予選落ちだね。

また、今日もシュートミスしているよ。

誰かが俺のことを見て書いている。

それ以来、部活で練習していても、サッカーが楽しくないと感じた。

「誰かが見ている、ミスできない。」

と思うと体が思うように動かない。以前のようなプレーはできなくなってしまった。

突然コーチが叫んだ。

「カズ、交代！」

紅白戦の練習メンバーからも外されてしまい、俺は重い足どりでコートから出た。

「元気出せよ、カズ」

練習後にキャプテンのヒデさんから話しかけられた。

「ヒデさん、俺、サッカーしてても楽しくない。」

「カズ、おまえ、何のためにサッカーしているんだ」

「・・・。。わかんない。ヒデさんは？」

小声で聞いた。

「俺は、自分と、みんなのためだ。」

一人じゃサッカーはできない。みんながいるからサッカーができる。」

帰り道、ヒデさんの言葉を思い出しながら歩いていた。俺はボールしか見ていなかった。みんなを見ていなかった。ゴールに進むことだけを考えていた。でも、ヒデさんは違う。チームみんなを見ていたんだ。俺はまだまだキャプテンにはなれないな。

その夜も、書き込みがさらに続いた。

フォワード戦力外通告！

そりゃあ、一人でサッカーしようとする選手は戦力外だよな。よし、俺もヒデさんみたいに、自分とみんなのためにがんばってみよう。

次の日の放課後の練習から、俺はみんなの動きを見てパスを出した。紅白戦でもドリブルで無理に突破しない。いつもより声を出して練習した。

フォワード復活できるか？

その夜、やっぱり書き込みがあった。

でも、俺はもう気にならなくなっていた。

《展開例》誰かが見ている、書いている（ブログ・掲示板）

主 題	誠実と責任	内容項目	1-(3)
資料名	誰かが見ている、書いている (2年生)	用いる疑似体験の指導	掲示板 (情報サイト・スタモバ)
ねらい	より高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ。		
主題構成の理由	ブログや掲示板は特別な設定をしない限り一般の人でも閲覧することができる。情報端末を持っている生徒はアクセスし、閲覧や書き込みをおこなうことができる。個人でサイトを開設している生徒も中にはいる。本資料では、主人公の考え方を中心に自分や社会に対して常に誠実でなければならないことに気づかせたい。		
展 開 の 大 要		指 導 上 の 留 意 点	
導 入	<ul style="list-style-type: none"> ・ ブログを見たことがありますか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ブログについて知っていることを話し合い、資料への関心を高める。 	
展 開	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主人公のカズはどんな中学生ですか。 ・ A中学校との練習試合はどんな様子でしたか。 ・ カズがサッカーを楽しくないと思うようになったのはなぜですか。 ・ キャプテンのヒデの話を聞いてカズはどう思いましたか。 ・ なぜ、カズはブログが気にならなくなったのでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主人公の気持ちに共感させる。 ・ 書き込みによる主人公の心の変化を考える ・ ヒデの話を聞いて考え方の違いに気づく。 	
終 末	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今日の授業の感想を書きましょう。 		
他の教育活動との関連			

(2) 《読み物資料》教えちゃダメだったの？（メール2）

教えちゃダメだったの？（メール）

私の名前はアツコ。勉強も運動もクラスで中くらいのごく普通の中学生。明後日がテストなので今日は部活動がない。放課後にすぐ下校になるから、友達と話す時間もなくすぐに家に帰ってきた。

テストがあるのに全然気が向かない。でも、前回のテストが良くなかったから、今回のテストはがんばらないと。まずは、特に不得意な数学から・・・。

「ここはテストに必ず出る問題だから、なんとしても解かないと。」

数学の問題集を開いて鉛筆を持ったまま、止まってしまっていた。

「う～、難しいな。この問題わかんない。」

「わかる人から解き方を聞いた方が早いかな。」

最近買ったばかりのケータイを取り出して、「助けてメール」を何人かの友人に出した。

 『お願い。数学 10 ページ 問 3 の解き方教えて m(_ _)m』

 《ブルブル》

「あっ、ユウコからのメールだ。さすがユウコ、この問題どうやって解いたのかな？」


そう思いながらメールを見た。ユウコは同じ小学校の出身で同じ部活なので毎日一緒に帰っている。クラスは別でも、部活も勉強も困ったときには頼りになる、何でも話せる友達だ。ケータイを買ってからは毎日メールのやり取りをしている。


 『アツコ、問題解けたかな？』


ねえ、聞いて！聞いて！今日、いいことあったんだ＼(^_^)／』


「エッ！いいことって何？何？」


もう、テスト勉強のことなんてすっかり頭から消えてしまい、すぐに返信を送った。

 『何があったの？おしえて？ユウコ！！』

 『ヤスシ君っていい人(^o^)]』

 『ヤスシ君って(?_?) ユウコのクラスの人なの？』

 『今月の班替えで一緒になった、私の席の右斜め前の人だよ。』


 『よく覚えていないな～ ねえ、ユウコ、くわしく教えて？』

ユウコとのメールのやり取りで今日のことが分かってきた。

理科室掃除のゴミ捨てを、いつもはユウコひとりですしているのに、今日は、同じ班のヤスシ君がゴミ箱を持って行ってくれたこと。「明日から順番にしよう」と提案してくれたこと。理科室の鍵を閉めて職員室に返すのもヤスシ君がしてくれたこと。

「ユウコのラッキーを、みんなに教えちゃお。」

私はアツコからのメールを何人かの友人に転送した。

 『ヤスシ君って知ってる？いい人らしいね。ユウコがいいことあったんだって。』

あれっ、もうこんな時間。どうしよう、数学の問題集、全然進んでいない。

もう10時を過ぎてしまっていた。

次の日、休み時間に教室で友人と話していると、ユウコが突然教室に入ってきて、私の机の前に立って大きな声で話した。

「どうして他の人に教えたの？」

みんなの視線が私たちに集中し、一瞬、クラス内の時間が止まったように感じた。

私は、小さな声でユウコに聞いた。

「あれ、教えちゃダメだったの？」

「何言っているの？アツコ！」

ユウコは怒って教室から出て行ってしまった。

「どうしよう・・・。」

思わずつぶやいてしまった。クラスみんなは、私と視線を合わせるのを避けているように感じた。

「どうして、ユウコを怒らせてしまったのかな」

授業中ずっとこのこととばかりを考えていた。

明日がテストなので今日も放課後には何もない。授業が終わったらすぐにでも帰りたい重い気分だった。

教科書を片付けて帰ろうとしたとき、同じクラスのトモミから話しかけられた。

「アツコちゃん。元気だしなよ。」

「うん・・・。ユウコに怒られちゃったんだ。」

「アツコちゃんが昨日、送ってくれたメールのことだと思うよ。休み時間に来たユウコちゃんすごく大きな声で言ってたからね。」

「ねえ、転送しちゃだめだったのかな？」

「あのメール、アツコちゃんだけに読んでほしかったんじゃないかな。」

「メールには、秘密だなんてユウコは書いていなかったよ。」

「でも、私はユウコちゃんから直接メールもらってないよ。」

その言葉で、はっと気がついた。どうして、ユウコは私にしかメールしなかったのか。いつも話している仲間のトモミにも出していないのか・・・。

私は家に帰って、トモミの言葉を思い出しながらしばらく考えた。

「ユウコに悪いことしたなー」



《ブルブル》

ユウコからメールが来た。私は恐る恐るケータイのメールを見た。



『アツコ、今日は怒鳴ってごめんなさい。明日くわしく話すから。』

私はユウコに伝えなければならないことは何なのかを考えた。

《展開例》教えちゃだめだったの？

主 題	信頼できる友達	内容項目	2-(3)
資料名	教えちゃだめだったの？ (1年生)	用いる疑似体験の指導	メール (スタモバ)
ねらい	メールに対する価値観の違いを理解し、共によりよく生活しようとする態度を育てる。		
主題構成の理由	携帯電話を持っている生徒は、連絡やささいなことを報告することにもメールを使用する。機能として安易に転送することもできる。メールに対する価値が人それぞれ違うので、友達の気持ちを考えて正しく使うことに気づかせたい。		
展開の概要		指導上の留意点	
導入	<ul style="list-style-type: none">親しい友人の秘密を他人にばらしてしまっただけですか。	<ul style="list-style-type: none">秘密にしていたことをばらしたり、ばらされたりした経験をもとにして、資料への関心を高める。	
展開	<ul style="list-style-type: none">数学の問題の「助けてメール」を出したアツコをどう思いますか。アツコは、どうしてユウコのメールをみんなに転送したのでしょうか。メールを転送したアツコを、ユウコはどう思いましたか。トモミの話聞いてアツコは何に気づいたのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none">アツコの行動に対して自分の考えをもつ。転送されたユウコの気持ちになって考える。	
終末	<ul style="list-style-type: none">トモミに対して伝えたいことを文章に表してみましよう。	<ul style="list-style-type: none">ユウコにどんな話をするのか考える。	
他の教育活動との関連			

(3) 《読み物資料》本当の心（メール3）

本当の心（メール）

私の名前はハルナ。私の親友はミナミとマユ。私たち3人は家も近くだったので、小さい頃から一緒に遊んでいた。小学校の頃には何度かけんかもしたけれど、いつもすぐに仲直りしていた。ミナミは思ったことは何でも言わないと気が済まない性格なので、よく男子とも言い争いになることがある。自分の意見をはっきりと話せるミナミを、私はいつもうらやましく思っている。おしとやかで静かなマユはいつも聞き役。しゃべりまくっているミナミの横で、相づちをしている。

「私たち、性格が全く違うのに、どうして仲がいいのかな？」

ミナミの言葉に私は答えた。

「話が合うからだと思うよ。」

マユが肯いてくれた。

「そうだね、一緒に話をしているから楽しいから、仲がいいんだよね。」

私もミナミの言葉に肯いていた。

今年のクラス替えで私は2人と別のクラスになってしまった。クラスや部活は別々でも終わるのを待って、3人で一緒に話をしながらいつも帰っていた。

今日は、ミナミが部活の片付け当番。私はマユと一緒に、ミナミが来るのを待っていた。

「いいな、2人は同じクラスで。」

「うん、あのね。」

そう、マユが言いかけたとき、

「お待たせ～！」

ミナミが勢いよく現れた。

そこからは、ミナミのマシガントークが炸裂した。今日、クラスであったことを事細かに話しまくる。ミナミの話を聞いていると、自分のクラスより、ミナミたちのクラスの事に詳しくなってしまうようだ。

「そういえば、ハルナのクラスでは、学級委員と委員会は決まったの？」

「私のクラス、中心になる人いないから、学級委員長も決まらなかったんだ。明日の放課後も続きの話し合いするんだって。」

「うちのクラスは、私が話を進めるから、全部決めちゃった。」

そうか、ミナミがクラスの議長ならすぐに決まるよね。

「ところで、ミナミは何委員？」

「私は学級委員長。もちろん、立候補したんだ。マユは保健委員。危なく生活委員になるところだったんだから。」

「ふ～ん、マユはまじめだから、生活委員でもいいんじゃない？」


私はマユの方を見ながら聞いた。すかさず、ミナミが答えた。

「生活委員は朝に服装点検をするんだよ。マユが男子に『Yシャツの裾入れて』なんて言えると思う？だから、保健委員に推薦したんだよ。」

ミナミたちのクラスの話聞きながら、私は何に立候補するかを考えていた。


携帯電話を買ってからは、3人でメールのやりとりをしている。帰りの時間に話さなかった事でいつも盛り上がっている。


あっ、マユからのメールだ。

 『私ね、生活委員やってみようかなと思っていたんだ。』

 『マユ、どうして？』

 『私ね、引っ込みじあんだから、ミナミちゃんを見習おうと思って。』

 『じゃあ、マユ、生活委員をしたら？』

 『でも、もう決まっちゃったから、保健委員がんばるよ！(^_^)』

マユとのメールのやりとりの10分後にミナミからメールが来た。



- 『ハルナ、実は今日の話合い大変だったんだよ。』
- 『あれ？すんなり決まったんだんじゃないの？』
- 『ちがうよハルナ。はっきりマユが言わないから、もう困っちゃったんだ。』
- 『マユは生活委員をやりたいって言ってたよ。』
- 『そうじゃないんだって。私、ちゃんと聞いたよ。』
- 『あれ？？そうなの？』

私はどっちの話が正しいのか分からなくなってきた。

ミナミとのメールのやりとりの後、どっと疲れを感じた。3人で話しているときにはあんなに楽しいのに、どうしてメールだと疲れてしまうのかな？

私は携帯電話を机に置いて、母のいる居間に向かった。

私は母に、今日の帰りの3人の話のこと、マユとミナミのメールの内容を話した。

「おかあさん、私、誰の話を受け入れればいいの？」

「3人でもう一度話してみなさい。直接話すのとメールのどっちをハルナは信じるの？メールだけでは伝わらないことがたくさんあるんじゃない？」

私は部屋に戻って帰って、母の言葉を思い出しながらしばらく考えた。

「2人の誤解を解くためにはどうしたいだろう」

私はミナミとマユ宛に同じメールを書いた。



『ミナミ、マユ、明日の朝、3人で話そう。』

直接で話せばわかってもらえる。そう信じて送信のボタンを押した。

《展開例》本当の心

主 題	友情・信頼	内容項目	2-(3)
資料名	本当の心 (1年生)	用いる疑似体験の指導	メール(スタモバ)
ねらい	会話とメールの印象の違いを理解し、共によりよく生活しようとする態度を育てる。		
主題構成の理由	携帯電話を持っている生徒は、連絡やささいなことを報告することにもメールを使用する。ただ、実際の会話と違い感情の行き違いや考え方の食い違いが生じやすい。メールに頼ることなく、より一層深い友情を構築できることに気づかせたい。		
展開の大要		指導上の留意点	
導 入	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達と考え方が違うことや、見方の違うことを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人によりものの考え方や見方が違うことを理解し、資料への関心を高める。 	
展 開	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仲良し三人はどんな友達ですか。 ・ 三人の会話から、ミナミはマユのことをどう思うかと思っていますか。 ・ ハルナは、二人のメールを読んでどんなことを感じましたか。 ・ 母の話聞いてハルナは何を考えたのでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仲のよい友達であることに共感させる。 ・ クラスの委員をきめる様子から分かるマユの性格を考える。 ・ 二人の感情の行き違いに気づく。 ・ 母の話聞いてハルナのとった行動を考える。 	
終 末	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今日の授業の感想を書きましょう。 		
他の教育活動との関連			

(4) 《読み物資料》軽い気持ちで書いたのに（掲示板）

軽い気持ちで書いたのに（掲示板）

「リュウタ、シュートだ！」

今週末のバスケの大会に向けて、2チームに分かれて俺たちは練習していた。今日は大会のメンバーを決める大事な試合だ。

俺は、タブセ先輩からのパスを受けて、ゴールに向かった。さすが先輩、敵と味方の動きを読んで、一番有利な位置にボールを出してくれる。やっぱりタブセ先輩はキャプテンになるだけの技術を持っている。俺もここでゴールを決めて、週末の大会のスターティングメンバーに選ばれたい。3ポイントのラインからではシュートを外すかもしれない。もう一步前なら確実にシュートできる。俺は1回だけドリブルをし、1歩、大きく前を出てシュートした。

「入れ！」

ボールが俺の手から離れたその瞬間、左から伸びてきた手でブロックされ、ボールはコートの外に飛んでいった。

「ピピーー！ フリースロー」

コーチのホイッスルで俺たちは動きを止めた。

タブセ先輩が俺に近づいて来て、話した

「リュウタ、落ち着いて確実に入れろ。」

息を整えて、シュート。1つ目を入れたが、2つ目を外してしまった。

練習の休憩時間に、俺はタブセ先輩のところに行って話した。

「すみません、先輩、確実に決められなくて。」

「いいんだよ、リュウタ。でもな、あの位置からならシュートできると思ってパスしたんだぞ。おまえのすぐ後ろにコウジがいたことに気がつかなかったのか？」

「はい。」

俺は自信なく返事した。先輩の言うとおりに、自分の左後ろに誰がいたことすらわからない。

「あの位置からリュウタのシュートが決まれば3点。でも、もし外れたとしてもゴール下に味方がいたからリバウンドを取れるから、すぐシュートして2点だ。でも、おまえは、ドリブルしてからシュートした。その時間に囲まれてしまっている。」

先輩は、俺が3ポイントシュートをいつも外していることまでも計算に入れている。

「リュウタ、バスケはチーム戦だ。誰にパスを出すのかがいいかを考えるんだ。」

さすが、先輩はキャプテンとしてチームを見ている。俺は改めて先輩に感心するとともに自分の練習態度を恥ずかしいと思った。3ポイントシュートは無理だから、ゴール下から入れる方が確実、なんて思いながら練習していたら、いつまでたっても上達するわけがない。

練習後に、コーチが週末の大会のスターティングメンバーを発表した。

「キャプテン、タブセ、・・・

・・・コウジ、以上。今日の練習終了！」

俺の名前は呼ばれなかった。俺の代わりにメンバーに入ったのはコウジだった。前回の大会では選ばれたのになぜ？そう思いながら、コートにモップがけをしていると、タブセ先輩と笑いながら話しているコウジの姿が目に入った。

「つまんないな。」

家に帰っても、メンバーに選ばれなかったことが俺の頭から離れなかった。悔しい思いがこみ上げてきて宿題も手につかない。さっきから数学のノートを開いているが、1問も進まない。

ため息をつきながら、俺はコンピュータの電源を入れて、バスケット部の掲示板へのリンクをクリックした。今年になってから、俺たちのチームの誰かが開いた掲示板をみんなで見ている。たまに、地区内の他の中学校から変な書き込みがあるけど、そのときには、みんなで見捨てている。最新の書き込みの日時は、ついさっきの時間だ。

大会のメンバー発表。がんばるぞー。

おまえは、メンバーに選ばれたのか？

イエス、と言いたいところだが、俺はベンチから応援する！

誰なんだろうこんな書き込みをしているのは。俺は一人で笑ってしまった。
「これって、誰だかわからないな。」
そう思うと、軽い気持ちでキーボードに向かっていった。

コウジ、シュートがんばって入れろよ～

しばらくすると、次の書き込みが追加された。

おまえは、ベンチを暖めてろよ。

「なに！」
俺は、頭に血が上っていくのが自分でもわかった。

キャプテンの足を引っ張って邪魔するなよ、コウジ！

「そうだ、足！」
冷静さを失った俺は続けて書き込んでいた。

コウジ、高価なシューズはおまえなんかには似合わない。もったいない。

2週間前に、俺がほしいと思っていたバスケットシューズをコウジが履いてきたことを思い出して思わず書いてしまった。このときは、掲示板への書き込みが大きな事になるなんて思っていなかった。

次の日の練習にコウジは姿を見せなかった。
「コウジは欠席か？メンバーに選ばれたって、来なきゃ大会に出られないぞ。」
チームの誰かが話しているのを聞いて、俺もうなずいていた。

その次の日、担任のミカミ先生が朝の短学活で話をした。
「みんなは、インターネットの掲示板を知っているか？」
はいはい、知っています。使っています、と俺は心の中で返事をした。
先生は説明を続けた
「掲示板には名前を書き込まないから、誰が書いたかわからない。と思っている人がいるようだが、実は書き込んだ人の情報が記録が残されている。」
俺は、少しどきどきとした。
「IPアドレスという情報をたどっていくと、どのコンピュータから書いたかわかる。」
俺は、鼓動が次第に大きくなっていくのを感じた。
「誰だかわからないと思って利用しないように。」
先生の話はそれで終わりだった。でも俺のドキドキは終わっていなかった。

短学活が終わるやいなや、同じクラスでバスケット部のアキラが俺の机のところに来た。
「リュウタ、先生の話って、バスケット部の掲示板のことだよ。おまえ、バスケット部の掲示板見たことあるよな？」

おれは、アキラから目を向けながら答えた。

「ああ、見たことはある。」

アキラは話を続けた。

「昨日、コウジが休んだのは、掲示板に悪口を書かれたからだよ。あの掲示板、他の中学校も見ているようだからね。新しいバスケットシューズを買ってもらって、コウジ、うれしがっていたからね。あのバスケットシューズはおばあちゃんに買ってもらったんだって。コウジはおばあちゃんが大好きだったからな。」

「俺、トイレに行ってくる。」

アキラの話を最後まで聞かずに、俺は教室を飛び出した。

「そんなつもりで、書いた訳じゃない。勢いで書いてしまったんだ。そんなつもりじゃない。」

心の中で何度も繰り返しながら、俺は教室に戻れずにいた。

「リュウタ、何してるんだ？」

廊下でミカミ先生に声をかけられたとき、俺は心を決めて、向き直って話した。

「軽い気持ちで書いてしまいました。」

俺を見ている眼鏡の奥の眼差しが厳しくなったように感じた。

「詳しく話してくれないか。」

ミカミ先生は俺を連れて相談室に向かった。

俺は、軽い気持ちでコウジの悪口を掲示板に書いてしまったと、ミカミ先生に話した。

ずっとだまって聞いていたミカミ先生は低い声で俺に聞いた。

「掲示板に書かないで、直接コウジに話すことができる内容か？」

「いえ、できません。」

「リュウタは、自分だとわからないと思ったから掲示板に書いたのか？」

「・・・はい。」

「そのことをずるいと思うか、思わないか。」

俺は、ミカミ先生の言葉に答えることができなかった。

「掲示板は誰が書いたかわからない。と思っている人がいるようだが、実は書き込んだ人の情報が記録が残されている。IPアドレスという情報をたどっていくと、どのコンピュータから書いたかわかる。なにより、書いた人の心には記憶として残っている。」

ミカミ先生は、しばらく俺の顔をのぞき込んで優しい目で話した。

「リュウタ。掲示板に書いたことの意味と責任をいっしょに考えよう。」

「はい。」

俺は、ミカミ先生の言葉にうなずいた。

《展開例》軽い気持ちで書いたのに

主 題	誠実と責任	内容項目	1-(3)
資料名	軽い気持ちで書いたのに (3年生)	用いる疑似体験の指導	掲示板 (情報サイト・スタモバ)
ねらい	自ら情報を発信することは責任が伴うことを理解し、他人への影響を考慮し、よりよく生きようとする態度を育てる。		
主題構成の理由	情報機器を活用する生徒は、掲示板やチャット、ホームページ、プロフなどを用いて情報を発信する立場に立つ。情報を発信する場合、自ら考え、判断し、実行し、自己の行為の結果に責任をもつことが必要になる。情報を発信する場合に他への影響も考え、責任ある行動をとらなければならないことに気づかせたい。		
展 開 の 大 要		指 導 上 の 留 意 点	
導 入	<ul style="list-style-type: none"> 友達と話をしている、無責任だなと思ったことはありませんか。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の生活を振り返り、資料への関心を高める。 	
展 開	<ul style="list-style-type: none"> 大会のメンバーから外れたリョウタはどんな気持ちだったでしょう。 リョウタはメンバーに選ばれたユウジのことをどう思っているでしょう。 リョウタはどうして頭に血が上ったのでしょうか。 リョウタはどうして掲示板に書き込みしたことを後悔したのでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 前回の大会では選ばれていることをもとに、悔しさや悲しさに共感させる。 掲示板への書き込みが、自分のことを書いているように思えたことへ共感させる ユウジの欠席や先生の話、アキラとの会話に目を向け、リョウタの落ち込んでいる様子に共感させる。 	
終 末	<ul style="list-style-type: none"> 情報を発信する場合に、気をつけなければならないことを話し合ひましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> 考え、判断、行動、他人への影響について考えさせる。 	
他の教育活動との関連			

(5) 《読み物資料》電源をOFFにしてください（携帯電話のマナー）
電源を切ってください（携帯電話のマナー）

「マリコ、母さんはペースメーカーを入れることになる。」
病院に向かう車の中で、父は運転しながら話した。母が倒れて入院してからもう2週間。母は心臓が悪い事は知っていたが、手術をするのを聞いたのは初めてだった。

「お母さんは元気になるの？」

私は不安になって、父に尋ねた。

「大丈夫だよ、マリコ。母さんはきっと元気になる。」

父と2人の暮らしにも少しずつなれてきた気がするが、やはり、母がいないと寂しい。以前よりも父は早く仕事を終わらせて帰宅するようになったけれども、夕飯を一人で食べたことも何度かある。朝、眠い目をこすりながら朝食を作っているときには、母のありがたみをしみじみ感じる。

「ペースメーカーを入れても普通の生活はできる。軽い運動ならばできるそうさ。ペースメーカーが正しく動いているかどうかを病院で定期的な点検と、8年後には電池交換のために手術をしなければならない。それと・・・」

《ピピピー、ピピピー》

話の途中で、父の携帯電話が鳴った。父は車を道路の左側に寄せて止めた。営業の仕事をしている父は家庭用と仕事用の2台の携帯電話を持っている。胸ポケットから取り出したのは仕事用の携帯電話だ。

「わかった。その話は、月曜日に・・・じゃあ、よろしく頼む。」

電話を切ってから、父は私との話を続けた。

「それから、携帯電話はペースメーカーから22cm以上離さなければならないんだ。父さんのように、胸ポケットに電話を入れていては危険だな。そうさ、病院内は携帯電話の電源OFFだったな。」

(※ <http://www.nttdocomo.co.jp/info/manner/>)

そう言うのと、もう一台の形態電話もズボンのポケットから取りだして電源OFFにした。

お母さんは元気そうだった。

「マリコ、朝ご飯きちんと食べている？遅刻しないで学校に行っているの？」

「大丈夫だよ、お母さん。」

確かに、遅刻はしていない。でも、始業チャイムぎりぎり学校に着いたことが2回ある。でも、私はお母さんを心配させないように話をした。

「マリコの面談までには退院できると思うから。マリコ、お母さんがいなくても勉強きちんとしなさいよ。成績が悪いと、お母さんびっくりして心臓止まるかも。」

「怖いこと言わないで、お母さん。」

笑いながら、私たちは久しぶりの会話を続けた。

「担当の先生から、母さんの手術についての説明を聞いてくるから、待合室で待っていないさい。」

父は、そう私に話すと診察室の方へ向かった。

母の手術、まだ母は帰ってこない。それを思うと心がだんだん暗く重くなってきた。私はボーとして待合室にいる人たちを眺めていた。マスクして背中を丸めて具合悪そうにしている人、腕にギブスをしている人、松葉杖をつきながら歩いている人。

「みんな、早く良くなってね。お母さんも元気になってね。」

私は心の中で願っていた。

「俺じゃないって、それ。」

その声には私は振り返った。待合室のソファの端に足を投げ出して座っている制服姿の

男子の高校生が少し興奮して携帯電話で話をしていました。一番後ろのソファでは小さな子どもを抱きながらメールを打っている若い母親がいる。

退院しても、お母さんはこの病院に検査に来る。この待合室でお母さんの隣の人が携帯電話を使っていたら……。そう考えると私は不安になってきた。

病院内では携帯電話の電源をお切りください。張り紙を見たとき、私は決心をした。

私は電話をしている高校生の前に行って声をかけた。

「あとう。」

私の顔を見上げた高校生が一瞬、いやな顔をしたように見えた。

私は勇気を振り絞って大きな声で話した。

「病院では、携帯電話の電源を切ってくださいませんか。」

待合室内の空気が一瞬、凍ったように感じた。

「またあとでな。」

高校生は電話の相手に一言話してから、電源を切ると突然立ち上がった、私は、びっくりして一步後ろに下がった。高校生は何も言わずに、私の前を横切って待合室を出て行ってしまった。

私たち2人のやりとりを見ていた待合室内の何人かは、ポケットから携帯電話を取り出して操作をしていた。メールを打っていた若い母親はばつが悪そうな顔をしてハンドバックに携帯電話を入れた。その様子を見ながら、私はまだ足が震えていた。

「マリコ、すごいな。」

その声に振り返ると、いつの間にかお父さんが待合室にいた。

「父さんだったら、注意できないな。」

そう言われて、マリコは心が温かくなるのを感じた。

《展開例》

主 題	社会の秩序と規律	内容項目	4-(1)
資料名	電源を切ってください (全学年)	用いる疑似体験の指導	
ねらい	人間としての生き方を自覚し、義務を遂行しようとする態度を育てる。		
主題構成の理由	生徒は携帯電話を、メールやゲーム、音楽プレーヤー、インターネットなど日常的に使用している。しかし、公共交通機関や公共施設など電源を切ることやマナーモードにすることなど決められている場所も数多くある。友達とのつながりを大切にする観点から電源を切らないマナー違反も見受けられる。本資料を通して、医療機器への影響を考え正しく使うことに気づかせたい。		
展開の概要		指導上の留意点	
導入	<ul style="list-style-type: none"> 携帯電話をマナーモードや電源を切らなければ行けない場所について発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> その時自分がおこなってきた行動を認識させ、資料への関心を深める。 	
展開	<ul style="list-style-type: none"> ペースメーカーについて話を聞いたマリコの気持ちを考える。 携帯電話で話をしている高校生やメールをしている若い母親を見た時のマリコの気持ちを考える。 高校生に注意をした時のマリコの気持ちを考える。 病院の新しい張り紙を見た時のマリコの気持ちを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ペースメーカーについて正しく理解できるように支援する。 資料の様子なども参考にして心情を考える。 ナースさんの言葉を含め、マリコの不安が打ち消されていったことを考える。 	
終末	<ul style="list-style-type: none"> 今日の授業の感想を書きましょう。 		
他の教育活動との関連			